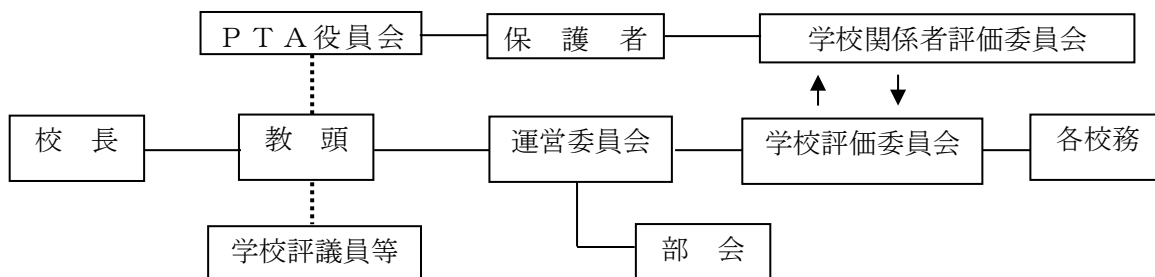


令和 2 年 度 学 校 評 価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

時期	項目	会議等
前期	① 本年度の課題・重点目標の発表 ② 各部・分掌の重点目標、方策の立案、評価シート作成 ③ 全職員の共通理解 ④ P T A役員への学校評価の説明と協力依頼 ⑤ 保護者への説明 ⑥ 学校評議員会開催 ⑦ 教育活動の中間評価報告・方策の見直し ⑧ 評価の分析と中間報告のまとめ	職員会議 各部・校務分掌会 職員会議 P T A役員会 P T A総会 各部・校務分掌会 学校評価委員会
後期	① 学校評議員、P T A役員会へ中間報告 ② 保護者への報告 ③ 教育活動の最終評価 ④ 本年度のまとめと次年度の計画案づくり ⑤ 評価と分析、最終報告のまとめ ⑥ 全職員の共通理解 ⑦ 評価 ⑧ 次年度の教育計画の確定	学校評議員会、P T A役員会 個人懇談会、H P 部会、分掌会 部会、分掌会 学校評価委員会 職員会議 学校関係者評価委員会の開催 職員会議

(3) 本年度の学校評価

重点目標	1 新学習指導要領に対応した教育課程を実践、検討し、個々の特性、生活年齢に応じた授業の充実を図る。 2 一人一人に合った将来像を思い描き、それぞれの自立に向けた必要な力を各部で育むとともに、関係機関との円滑な連携に努める。 3 高い専門性を身に付け、校内の支援体制を強化すると共に、地域の特別支援教育の向上をめざし、協働体制をつくる。		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
	研修を有効活用して自立活動を学び、時間における指導内容の充実を図る。	・児童の中心課題を明らかにし、「自立活動の時間の指導」を実践し学習内容の検討と指導の充実を図る。 (小学部)	・いきジョイ(校内研究)と連動し、小・中・高の職員が協働して自立活動の時間の指導について実践し、特性や年齢にあった目標に向けて学習が進められるよう工夫を重ねる。 ・部を越えた授業参観を実施し、自立活動の時間の指導において、職員が目標をもって自らの専門性を高める研修に努める。

自立活動を中心にした授業づくり	<p>新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、実践、検討を重ねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の学習内容の検討と指導の充実を図る。 <p>(中学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や自立活動検討会などを通して、職員間で共通理解をしながら授業づくりを進める。部会などで事例を持ち寄り、部全体でも共有できるようにする。 ・いきジョイ(校内研究)を通して、他部の意見も参考にしながら、自立活動の指導の充実を図る。
	<p>自らの部のみならず多くの授業を参観し、12年間を見通し、特性、年齢に合わせた授業を創造する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して自立活動の目標を押さえた指導を行う。(全体) ・BC類型の自立活動について、効果的な指導方法と学習内容の検討を行う。 <p>(高等部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・副担任・授業担当者で情報を共有し中心課題を踏まえた授業や指導を実践する。 ・試行の期間をもち、いきジョイ(校内研究)や学年内で検討しながら集団で行う自立活動の指導方法や学習内容の充実を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教務関係書類に関してできる限り遺漏や遅延なく業務を進められるようにする。 ・新しい学習指導要領改訂に伴う教育課程や各種様式の改善を図る。 ・教科会を通して、授業力の向上を図る。 <p>(教務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務関係書類の変更点について、新しい学習指導要領のポイントを押さえながら発信する。各部で様式等が異なるため、各部の実情をふまえて内容や回数を設定する。 ・各部の教育課程検討会等を通して、学年主任や教科主任等から実務上の問題点や課題を吸い上げ、整理し、令和3年度に向けた改善案をまとめる。高等部については、令和3年度に向けて新しい教育課程を編成する。 ・新しい学習指導要領のねらいを踏まえ、本校の目指す子ども像を意識した授業実践に取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部を越えた自由な授業参観を通して、自らの部のみならず多くの授業を参観する雰囲気をつくったり、「みんなで三好特別支援学校の子どもを育てる」意識を高めたりする。 <p>(研修部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部を越えて自由に授業参観できる期間を年間2回設定する。 ・部を越えた自由な授業参観期間以外にも、気軽に授業を見合うことをPRする機会をつくる。 ・自立活動部、教務部と連携を図り、部を越えた自由な授業参観を計画・運営する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の特性に応じた具体的な支援につながる研修会や情報交換を行い、職員の専門性の向上を図る。 <p>(自立活動部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践するにあたって参考となる具体的な支援について専門家による研修会を計画し、実施する。 ・自立活動だよりを通して、自立活動に関する情報の提供をしたり、職員の授業実践を紹介したり、具体的な支援方法を提示したりする。 ・他の分掌や専門性の高い教員の協力を得て、自立活動に関する相談会を開く。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新着図書の紹介、定期購読図書や外部からの資料の情報を発信していく。 ・図書の利用しやすい環境を工夫する。 <p>(図書資料部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子掲示板や回覧等により、情報に触れやすくする。 ・図書の配架について検討する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を的確に把握し、授業実践していく上での課題を抽出しながら、教師間の共通理解に努める。 ・特性、年齢に合わせた個別課題を実践し、時間における指導の充実を図る。 <p>(東名古屋病院)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が好む活動や教材教具を用いることで、無理なく心地よい環境づくりを工夫する。 ・病棟の看護師や保育士、理学療法士や作業療法士と連携を取らる中で課題を明確にし、安全に取り組むようにする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">将来像につながるキャリア教育</p>	<p>一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達の視点で自立活動を促え、部間のつながりを意識した取り組みを目指し、児童の将来を見据えた指導ができるようにする。 (小学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携を図り、職員向けの研修会を実施し、キャリア教育について学び日々の指導に生かす。 ・保護者研修会を実施し、卒業後の生活に向けて各部で必要なこと、小学部段階での課題など、将来をイメージした支援について保護者と共に考える機会を設ける。
	<p>関係機関との円滑な連携に努め、一人一人に合ったよりよい生活や進路実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が進路に関する知識を深め、生徒の将来を見据えた指導ができるようにする。 (中学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に進路に関する勉強会などを開催し、職員のスキルアップを目指す。 ・作業種目の見直しやチャレンジ体験の充実に向けた検討を進める。
	<p>子どもたちの将来像が具体的に思い描けるよう、事業所見学や講話を通してキャリア教育についての理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据えた指導・支援の実践を図る。 (高等部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を中心に職員向けの勉強会や夏季休業を利用して事業所見学を行いスキルアップを図る。 ・卒業後の生活をイメージした行事(実習)や作業学習の内容の検討を行う。
		<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部段階におけるキャリア発達課題について考えることができる勉強会を実施する。 (進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部へとつながっていくキャリア発達に目を向け、日々の実践で取り組むべき小学部段階での課題、それに向けた支援のあり方について考えることができる勉強会を行っていく。
		<p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けて、学年ごとに進路に関する情報を提供する。 (進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する調査を行い、進路情報連絡会などで保護者の進路に関する意識や質問に説明をしていく。 卒業生の保護者に進路決定までの経験談を話してもらう機会などを加えていく。進路に関する情報なども随時連絡していく。
		<p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習の実施時期の検討を行う。 (進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から、進路希望先での実習の機会を増やしてほしいという要望や、事業所から実習時期を早めてほしいという要望が出ている。「高等部の産業現場等における実習の実施時期・期間の意図と各学年の流れ」の資料を作成し、高等部会、教育課程委員会で検討を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導の充実を図り、家庭と学校が連携して児童生徒を支援していくための一助となるような情報提供を行う。 (自立活動部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の概要や学校で行っている支援、家庭で取り組みやすい内容等について紹介するために保護者向けの自立活動だよりを発行する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自主的に健康生活を送ることができる資質や能力の育成を図る。 (保健体育部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画の月間目標を全体連絡で周知し、保健教育の充実を図る。児童生徒が取り組みやすい健康に関するイベントの企画や教材教具の提示を行い、教育活動を積極的に進める。 ・感染症に対する情報を積極的に集めて、具体的な対応方法を伝達していく。学校全体で感染症拡大防止策を協議できるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・定期購読図書や資料の特集内容を活用し情報提供をする。 (図書資料部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携して情報の収集や選択をし、紙面により情報提供する。 ・新着図書を分かりやすく配架する。

内外の特別支援教育力の育成	自己研修に努め、さらなる専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきジョイ（校内研究）」に全校で取り組み、高等部の自立活動の時間の指導の授業について職員全員で共に考え、学び合う中で、専門性の向上を図る。（研修部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校職員で3チームに編成して進める。 ・学校全体で高等部の自立活動の授業（時間の指導）について共に考え、参加者の気づきを重視したワークショップを年8回計画する。 ・小学部、中学部、高等部、自立活動部、教務部、教育支援部と連携を図り、ワークショップに反映させたり、いきジョイ（校内研究）の内容を還元したりする。
	各部、核校務分掌が協働し、校内支援体制の充実を図るとともに、外部関係機関とも連携した支援会議を積極的に行う。	<p><校内サポート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の支援において、外部の相談資源の活用を広げ、情報を共有することにより、多様な相談への校内の対応力をつける。（教育支援部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の相談資源を活用し、活用状況や相談内容を共有することにより、児童生徒、教員への支援に役立てる。 ・他の校務分掌と連携しながら、校内支援体制の充実を図る。
		<p><校外サポート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校・高等学校や市町のニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域と共に特別支援教育力の向上を図る。（教育支援部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動を中心に、支援方法に関する情報を提供しながら、各市町の特別支援教育力の向上につながるよう働きかける。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内ホームページを整備し、校内の連携を支援する。また、学校ホームページを利用して校外への情報提供を充実させる。（教育工学部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ホームページ「みよしねっと」のレイアウトを段階的に変更し、必要な情報にアクセスしやすくする。 ・各主任等が情報提供しやすいよう、ホームページ掲載情報のリストを作成し、更新頻度を増やす。 ・校外ホームページのレイアウト更新に向けて作成を進めるとともに、外部にとって魅力的な追加コンテンツについて情報を集め、検討する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内のアレンジャーやロッカー等の整理整頓を行い、物の位置や表示等を改善することにより、職員の仕事の効率化を図る。（総務部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員用アレンジャーやロッカーの整理整頓を行い、表示を明示化しみよしネット上でも確認できるようにする。職員室内の、職員の導線を考え、物の位置や表示改善することにより職員の仕事の効率化を図る。
	センター的機能を一層発揮し、地域（3市1町）の特別支援教育力が向上するような協働体制を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震などの緊急時における対策や行動について確認し、児童生徒や職員がより安全に行動や避難ができるようにする。 ・スクールバスの安全で適正な運行に努める。また、自力通学生の安全やマナーについての実態を把握し、実情に合わせた指導を行う。 ・常に児童生徒の様子に気を配り、いじめや不適応行動の防止に努めるとともに、問題事案に適切に対応する。（生活指導部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火事における避難訓練の実施や、緊急時における行動や対応について再確認し、児童生徒、職員、保護者の動きについてより安全で効率的な形を構築する。 ・スクールバスについての校内外からの情報については、関係部署と常に情報を共有し、早期に対応する。自力通学生については、バス停や利用駅における安全指導やマナー指導を実施し、安全やマナーへの意識向上を図る。 ・担任や学年職員と日頃から情報交換を密に行い、保護者との連絡帳から情報を得たりしながら、児童生徒の不適応行動の早期発見に努める。場合によっては、校内外の相談支援を活用して対応する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した教育課程の検討と部間のつながりを考えた支援を行う。 ・小・中学部、高等部、庶務部、及び校務分掌間の双方向での発信に力を入れ、スムーズな連携で教育活動をより活発にするとともに、効率的かつ適正に業務を遂行する。 		